



知をつなぐ。世界をつなぐ。未来をつなぐ。  
JAPAN INTERNATIONAL COOPERATION CENTER

令和4年度「日本語教育の参照枠」を活用した教育モデル開発事業

# 就労分野における「日本語教育の参照枠」を 活用した教育モデル開発事業

一般財団法人 日本国際協力センター (JICE)  
衣川隆生

# 報告内容

- ①事業目的
- ②JICEのこれまでの取り組み
- ③就労分野の教育モデルの視点・特色
- ④教育モデル開発の方針
- ⑤シラバスの基本的な枠組み
- ⑥カリキュラム開発のプロセス

## ①事業目的

- 1) 対象となる就労者に求められる日本語能力の  
段階別業務内容別Can-doリストの作成
- 2) Can-doベースの就労者対象のコース  
カリキュラムの開発・試行
- 3) 教師研修モデルの開発・実施

## ②JICEのこれまでの取り組み

### ●コースカリキュラムの開発・試行

- ・定住外国人の就労・定着支援(厚労省, 2009~)
- ・「はたらくための日本語」刊行(2019)

### ●日本語能力Can-doリストの作成

- ・求職者に対する評価「できることリスト」策定(厚労省, 2020)

### ●教師研修モデルの開発・実施

- ・就労者に対する日本語教師【初任】研修(文化庁, 2019~)

## ③就労分野の教育モデルの視点・特色

- 1) 就労段階の多様性
- 2) 外国人材のキャリアパスの多様性・移動可能性
- 3) 求められる行動・内容・言語活動の多様性・  
個別性

## ④教育モデル開発の方針

コースカリキュラム骨子(2022年度)

教材サンプル・評価ガイド／教師研修(2023年度)

- ・対象となる業種・職種宿泊業（接客関係職種）
- ・対象とする就労者：求職者、在職者
- ・モジュール型カリキュラム

## ⑤ シラバスの基本的な枠組み

- レベルA1～B1、400時間程度
- モジュール型（5言語活動含む職務別ユニット）
  - ・ 職場共通のCan do
    - 宿泊業（接客）のコミュニケーション場面を想定
  - ・ 宿泊業の職種別Can do
    - 人材育成プログラムに沿ったCan do
  - ・ 生活文化理解

## ⑥カリキュラム開発のプロセス

- 1) 宿泊業での日本語教育ニーズ・日本語を使う  
職務（Can do）に関する調査
- 2) 収集Can doとJICE Can doとの組み合わせ
- 3) 各職務とCan doのレベル（A1～B2.2）の整理  
→カリキュラムの骨子

ご清聴 ありがとうございます